

10、ケアマネ連絡会

1、主な構成メンバー

- ・長野市障害福祉課
- ・長野市障害者相談支援センター（7名）（希来里／歩楽里／ほっとらいふ相談室桃の郷／まい・すてっぴ／ベターデイズ／絆の会相談室/COCO）
- ・長野市発達相談支援センター（2名）（にしいろキッズらいふ/ベターデイズ）
- ・長野市障害者権利擁護サポートセンター（2名）（ベターデイズ）
- ・長野市障害者地域移行コーディネートセンター（1名）（絆の会相談室）

2、今年度の取り組み

今年度のケアマネ連絡会は、地域課題の抽出、人材育成、相談支援体の3つについて重点的に行ってきた。個別の課題から地域の課題の抽出、検討を行い、この地域での社会資源やシステムの課題を明らかにすることを目的とし取り組んだ。また相談支援体制の強化を目的とし、スキルアップ研修の実施、相談支援専門員等の地域の相談員との連携、相談支援の役割等について取り組んできた。

相談支援を行う中で、障害者の定義を超えた相談内容や、障害福祉サービスでは対応が難しいケースが多くなってきている現状を踏まえ、今後の相談支援の体制について様々な機関との連携やシステム必要と感じている。

3、ケアマネ連絡会の活動状況・主な成果と課題

項目	事業	内容	実績
人財育成	相談支援研修	『長野市障害者相談支援専門員等スキルアップ研修』 ○相談支援専門員や支援に携わる支援者等を対象とし講義及び演習から支援の質の向上や支援スキルを高めることを狙いとした研修の実施をした。	2回開催 12/28長野市トイゴ参加者34名 相談支援専門員の燃えつき予防 「人を支える私たちのメンタルヘルス」 Fメンタルクリニック臨床心理士佐々木尚子氏 1/18zoom開催 「DV加害者プログラムと尊重しあえる関係作りについて」 かとうメンタルクリニックNRRP研究会精神保健福祉士鶴巻雄介氏 ・新型コロナウイルス対策を講じて研修会を行った。
		『支援困難事例の検討』 ○委託専門員や圏域コーディネーター、市のCWが抱えている困難なケースについて、ケアマネ連絡	・ひきこもりで支援に繋がりにくいケース、民生児童委員や司法等関係機関と連携したケース、発達障がいの方で就労に繋がりにくいケース、家族全体の支援が必要なケ

◇令和2年度 事業報告

		会の中で検討を行った。	ースなどを検討した。 ・事例から見えてきた現状として、障害福祉サービスにつながらないケースについてCWとのケース共有の必要性を感じた。 ・障害福祉サービスにつながらず、どのようなニーズがあるか検証の必要がある。
		『指定相談支援事業所連絡会』 ○長野市内の指定相談支援事業所の相談支援専門員の定例会議 ・情報提供（行政から、新規事業所紹介含む） ・テーマを決めてグループワーク	・4月 だれでも研修会 ・7月 プランの書き方、支給量の考え方／新型コロナウイルス関連／障害者相談支援センターについて ・8月 委託専門員と相談支援専門員の連携について ・10月 地域課題について ・12月 スキルアップ研修「相談支援専門員の燃え尽き予防」 ・2月 ケースワーカーと話そう
連携	福祉関係者との連携	長野圏域自立支援協議会連絡会議 参加者 ・県福祉事務所 ・市町村委託相談員 ・県委託専門相談員 ・市町村	11月13日 圏域内市町村関係者も交え全体会を開催。 ①・強度行動障害に係るワーキングの設置について ②長野圏域障害者福祉計画・障害児福祉計画について ・来年度、強度行動障害のワーキングが設置される
	他機関との連携	『長野市特別支援教育 Co 連絡会』 ○学校教育課主催。小中学校が支会毎に集まり、適切な支援を行うための体制づくり、支援の充実を図る。特別支援教育コーディネーター参加	・特別支援教育 Co の運営委員会にケアマネ連絡会こども部会担当者が出席（年3回） 各支会の連絡会については、新型コロナウイルス感染防止の観点も含め年2回行われた 第1回連絡会 中止 第2回連絡会 稲荷山養護学校巡回相談員による講義 通常学級における「合理的配慮を必要とする生徒」の見出しと対応 第3回 「適切な学びの場」ガイドライン各学校にて説明動画視聴
		『地域福祉関係者連携の会』※ ○保健センターブロック毎に開催 ・保健センター保健師の参加 ・包括支援センターの参加	・松代若穂地区地域連携の会 年2回 ・若穂地区地域連携の会 年2回 ・浅川、第1、第2 1回 ・第3、4、5地区保健福祉連絡会 3回
		『地域発達支援会議』	1回開催 zoom での会議開催

◇令和2年度 事業報告

	○保健センターブロックごとに	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表「入学に向けてのかかわりを振り返る」 ・関係機関（小学校、幼稚園、保育園、福祉）より今年度の関わりの中での気づき ・スーパーバイザーからの助言 <p>1/15 真島、松代保健センター 1/26 西部保健センター 2/8 三陽、東部保健センター 2/12 北部、吉田保健センター 2/26 犀南保健センター</p>
会議への参加	『長野市障害者虐待防止 連携協議会』	<p>10月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度活動報告・令和2年度活動計画・事例検討（①令和2年度の障害者虐待の状況について②障害者虐待のリスク要因について）
	『長野市障害者差別解消 連携協議会』	<p>10月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度活動報告・令和2年度活動計画・理解啓発について「合理的配慮とやさしいお店登録制度について」
	『障害支援区分認定審査会』	<p>1 審査会あたり平均 30 件審査 令和2年度 13 回実施 新型コロナウイルス対策のため、書面による審査も複数回実施。</p>
	『教育支援委員会』 ○特別支援の配慮が必要な児童生徒への適切な判定を検討する委員会への参加	<p>R2年度 17 回実施 判断件数： 来入児、小学生、中学生、<u>合計 475 件</u> 判定件数 394 件 来乳児に関しては基本的に通常学級に入級し特別な配慮をし状況に応じて再相談とする方向としている。</p>
	『長野市成年後見支援センター運営委員会』 二木	<p>第1回 8月19日「運営状況について」「法人後見受任事業について」「成年後見制度利用促進に係る長野市の対応状況について」 第2回 2月17日 「成年後見制度利用促進に係る長野市の対応状況について」「運営体制等について」</p>

◇令和2年度 事業報告

<p>情報の共有</p>		<p>『相談員パンフレット』 ○長野市委託の相談員の連絡先等が掲載されたパンフレット 窪田</p>	<p>・相談支援センターの移転に伴い所在地、連絡先の変更したパンフレットの作成を行った。</p>
<p>協議会への参加・運営</p>	<p>長野県自立支援協議会</p>	<p>『長野県自立支援協議会』 ○長野県自立支援協議会の各部会の活動状況や各市町村の状況についての報告</p>	<p>第1回 11月10日 第2回 3月16日 Web会議 ・各部会の活動報告 ・第6期障害福祉計画 第2期障害児福祉計画について ・県内の動向、情報提供など</p>
		<p>『障がい者相談支援体制 機能強化会議』 小池 ○各市町村のセンター代表と、市町村の行政が参加 ○県の協議会に位置づけられた会議として、各地域の障がい者相談支援体制の整備及び質の向上を目的とする。</p>	<p>ZOOMでの会議開催となった。 第1回 6期障害福祉計画、第2期障害児福祉計画の「目指す方向性」情報交換 第2回 6期障害福祉計画、第2期障害児福祉計画の協議会を活用した検討状況の共有」</p>
		<p>『障がい者総合支援センター連絡会議』板倉 ○県内の障がい者総合支援センターより代表者が参加 ○各圏域の情報共有を行う。</p>	<p>今年度は年2回開催された。 6月にはWeb会議の試行も兼ねて、新型コロナウイルス感染拡大に伴うサービス提供事業所と相談支援の連携状況・自立支援協議会について、7月には相談支援従事者養成研修（初任・現任、主任相談支援専門員研修含む）、県自立支援協議会の活動について、情報共有を実施した。</p>

◇令和2年度 事業報告

長野市障害ふくしネット	<p>『部会長連絡会』 『運営委員会』 『事務局会議』</p> <p>板倉</p>	<p>運営委員会の事務局会議へケアマネ連絡会からも代表者が参加し、運営委員会の議題整理、地域課題の共有、検討が行われるように努めた。</p> <p>運営委員会にケアマネ連絡会執行部が参加し、地域課題の検討や相談支援体制の検討を行った。</p> <p>R3年度以降の相談支援体制について、ケアマネ連絡会でも検討し、運営委員会において、委託相談である相談支援センターに求められる役割、委託相談で行うことについて、長野市と連携しながら具体的に検討することができた。</p> <p>運営委員会で検討された事項をケアマネ連絡会で情報共有し、各部会・委員会へケアマネ連絡会から参加することで、情報共有を図った。</p>
権利擁護	『出前講座』虐待防止・差別解消等の権利擁護に関する出前講座を行った。	5事業所において11回開催し225名が参加した。
地域移行	○地域移行を推進していくための研修会	<p>8月19日「精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会」書面会議</p> <p>12月22日・2月9日「千曲・坂城自立支援協議会こころの支援部会」Web会議</p> <p>10月20日「須高自立支援協議会 地域生活支援部会」研修会 高山村保健福祉総合センター</p> <p>2月24日「須高自立支援協議会 地域生活支援部会」Web会議</p> <p>10月27日「長野市精神障害者の退院支援・地域生活連絡会」</p>

4、総括（1年間を振り返って）

①相談支援体制の強化検討

昨年度に引き続き、運営委員会の中で障害者相談支援体制強化のための検討会が行われたが、ケアマネ連絡会では、重層的な相談支援体制の中での相談支援センターの役割や、基幹センターの役割、指定相事業所の役割についての現状について分析し状況把握の共有を行った。

これまで委託相談で実施している、個別の総合相談、地域課題の検討（地域のニーズの顕在化）、指定相談支援事業のバックアップなどについても、役割の整理をしながらよりいっそうの充実を図り、利用者の生活の相談しやすく、充実した相談支援体制を構築できるように今後も相談支援体制の強化検討を継続していきたい。

②人材育成（スキルアップ研修）

長野市の相談支援センターは基幹相談支援センターの役割の一部としての相談支援事業所の人材育成の役割を意識してスキルアップ研修を開催している。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大のために研修が行えるのかという不安もあったが、その時の状況で判断していくなかで研修準備を始めた。内容については、昨年度障害理解のテーマで行い、今年度は幅広いテーマで新型コロナウイルス対策のために近隣の講師に依頼したいと考え、講師、内容について検討し実施した。

1回目は長野市トイゴで定員の半以下の参加者で行い、消毒、体温を測るなど新型コロナウイルスの対策をし、2回目はzoomで初めてスキルアップ研修を行い、計画通り無事に行うことが出来た。相談支援専門員の燃えつき予防研修は実施後、参加者から自分の支援を見つめなおす機会になったなど研修終了後お互いに感想を言い合う姿が会場で見られた。新型コロナウイルス対策の為、研修会も例年に比べ大幅に減っていたが、相談支援専門員が集まりお互いの顔を見て話せたことは大きな燃えつき予防になった。2回目のzoom研修ではDV加害者支援のプログラムを学ぶことで、DVについて改めて考える機会になった。参加者からもDVについて学ぶ研修機会がなかったので、貴重な機会であったなど感想を聞いた。今年度スキルアップ研修ではアンケートをとらなかったため、参加者全ての感想ではなく委託が数人から聞いた感想になり、来年度は実際のニーズをつかむためにアンケートの必要性を感じた。

③障害者相談支援従事者研修について

長野県では昨年からはモデル事業としてカリキュラムが見直されていた障害者相談支援従事者研修（初任者研修・現任研修）は、令和2年4月1日より厚生労働省の通知の一部改正があり、標準カリキュラムの見直しが行われ、今年度は全国標準のカリキュラムでの研修となった。

また、今年度は新型コロナウイルス対策もあって各地域で研修が行われ、長野市は長野圏域・北信圏域での研修実施となった。身近な地域ごとで、地域の中核機関とのつながりを目指した研修ということもあり、初任者研修・現任研修での長野市障害者相談支援センター専門員が演習講師を務め、講義・演習の合間に実施されるインターバル実習を企画・運営した。初任者研修インターバル実習では、個別の相談支援における「インテーク・アセスメント」「アセスメントからプランニング」についてのスーパービジョン、地域資源の説明をおこなった。現任研修インターバル実習では、意思決定支援について個別のスーパービジョン、協議会の参加体験（相談支援からの地域課題について）を行った。

◇令和2年度 事業報告

今年度は主任相談支援専門員研修も行われ、多くの長野市障害者相談支援センター専門員が受講した。主任相談支援専門員の役割として、地域の相談支援にかかわる人材育成やスーパービジョン、地域包括ケアの推進、地域づくりが求められている。相談支援事業所はいわゆる1.5人職場のような、比較的小規模な事業所が多く事業所を訪問してのサポートや人材育成、事業所運営への助言などのサポートが必要とされている。

初任者研修・現任研修の演習講師などから、地域の中での相談支援事業所の相談先の必要性、フィールドメンタリングやスーパービジョンの体制と実施、人材育成の必要性、地域づくりや地域包括ケアの推進など、多くのことが必要であると感じられた。地域の相談支援体制の充実のためにも、相談支援事業の人材育成などからの、相談支援体制の充実を図っていくことが大切と感じられた。

また、長野市障害者相談支援センター専門員が個別に受講生の方々と話す機会をとおして、協議会や相談支援体制についてのわかりにくさや理解のしにくさも感じられた。今後相談支援専門員を対象に、協議会・相談支援体制について定期的に伝達できる機会や話題にしていく必要性を感じた。

④指定相談支援事業所連絡会

今年度より、ケアマネ連絡会の中の人材育成係が指定相談支援事業所連絡会、相談支援専門員等スキルアップ研修、県相談支援従事者初任研修・現任研修をまとめて担当する形とし、人材育成という面から総合的に取り組んだ。その一環として、相談支援専門員の連絡会である指定相談支援事業所連絡会を開催し、相談支援専門員の執行部会4名と共に、企画・当日の運営に携わった。今年度は新型コロナウイルスの影響により、各事業所1名の参加という制限を設けての開催となった。

連絡会は、市からの情報提供の場、また相談支援専門員同士の情報交換・共有の場として重要な役割を担っている。今年度は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出により、相談支援専門員の業務にも様々な影響がでた時期もあり、課題や対応等についての情報交換を行ったり、令和3年度からの長野市の相談支援体制の見直しに関連した情報提供や、地域課題を意識できるようなグループワークに取り組んだ。

相談支援専門員との協力やバックアップは、委託専門員の業務の中でも重要なものである。次年度も、相談支援専門員の声に耳を傾け、有意義な連絡会であるよう関わっていききたい。

⑤地域課題の検討

相談支援をとおして、地域における障害のある人に関わる地域課題について、抽出・検討をした。様々な課題が上がっている中で、今年度は「強度行動障害のある方」「重症心身障害のある方」「医療的ケアが必要な方」「介護保険へ移行する方」に関する課題について検討を進め、より具体的な実態把握のため、相談支援専門員に対してのアンケートを実施し、まとめた。今後、課題解決にむけて運営委員会に提出予定。

地域の課題が幅広く共有され、検討・解決へとつながる仕組みづくりについて、長野市の相談支援体制の強化とともに考えていきたい。

⑥ふくしネットへの参加（各部会、委員会 ワーキング）

各部会の担当を決め、執行部、部会に参加し、他の部会の状況について報告し、開催方法も含め一緒に検討してきた。ケアマネ連絡会では、Webでの会議開催を数回行い、必要な検討をできるように試行した。また、ケアマネ連絡会以外でも活用できるようにWeb会議アプリの操作に慣れるようにした。